

地域の守り手との現場発砂防ミーティング(令和5年度より)

- 国土交通省の砂防事業担当部局と砂防工事の担い手として活躍されている地域建設業並びに都道府県砂防行政との連携強化を目的として令和5年度より実施
- 土砂災害現場で二次災害対策に実際に取り組んでいる地域の建設業者さんから、工事の実態や実践的な工夫事例などについてWEB会議でお聞きし意見交換を実施

●鹿児島県の事例

・鹿児島県瀬戸内町久慈地区における災害関連緊急砂防事業に係る主に初期対応について

【開催概要】

●参加者

- ・(株)伊藤組(初期対応工事担当)
- ・鹿児島県(県庁砂防課、大島支所、事務所)
- ・国土交通省砂防部保全課

●開催日

- ・令和5年9月12日



ミーティングの様子
(砂防部保全課)

参考写真: 狭隘な現場
(複数の重機による転置)



【主な意見等】

- ・埋塞土等除去について集落内道路及び農道が狭隘であり、大型車が通行できなかったため、0.45BHと4tダンプ車による非効率な作業、そのためBHを最大4台同時稼働させ、掘削作業と集積作業を分業化。また、転石は、河道内で破碎すると掘削作業に遅れが生じるため、一度河道外に仮置きし、掘削作業完了後に破碎作業を行った。
- ・重機の手配は苦勞したことの一つ。BH4台の手配は、地域内から災害優先で集めてきた。
- ・その後台風6号が襲来した。午前。午後パトロールを行った。会社から車で30分程度。雨の中で集落の方も一緒に小型の土のう積みをするという場面もあった。大型土のうについては、一段目に二つ、二段目に一つを重ねる形式で今回の豪雨の雨量であれば流されることもなく大丈夫だった。
- ・本件現場ではテックドクター制度で上空にヘリを飛ばしていただいて専門家の的確なコメントをもらい現場の判断のうえで強みになった。

●長野県の事例

・長野県飯田市名古屋山地区における災害関連緊急砂防事業に係る主に初期対応について

【開催概要】

●参加者

- ・池端工業(株)(初期対応工事担当)
- ・長野県(県庁砂防課、事務所)
- ・国土交通省砂防部保全課
- ・関東地方整備局地域河川課

●開催日

- ・令和5年10月24日



ミーティングの様子
(長野県 下伊那南部
建設事務所)

参考写真: 仮設導流堤
(設置完了)



【主な意見等】

- ・仮設導流堤は、ある程度大型土嚢をワイヤーロープで一体化しながら、最終的にはネットを張る構造。ワイヤーロープをどのぐらいの力で引っ張ったらいいいのか説明書などを見ながら施工していたが、そんなに難しいものではない。災害時は、注文した製品が道路の通行止めで、現場に入らないこともあるので、備蓄があれば良いと思った。他の地区でも災害があった場合に備え、関係者で施工方法のノウハウを共有すれば良いと思う。
- ・やはり地域の中で若手が非常に少なくなっている。飯田市など街の方に出てしまうケースが多い。人材育成は、近未来的にもかなり大きな問題。
- ・顔見知りの地元の方がよく通るため、啓開作業時にそれを一律に止めるのは難しかった。地元の方からは仕事をさせてもらう時に、応援いただく事になるため、交通整理は苦勞した。
- ・かなり急勾配な現場であったため、車両の進入時はできる限り目視確認ができるように前進で作業が出来るようにした方がよい。今回の施工箇所は地主さんとの話も上手くやって頂けたため、転回場ができる範囲まで用地を広げさせてもらった。